

第3回学校協議会 議事録

日 時：平成29年2月17日（金） 15：30～17：00

<校長挨拶>

本日は3回目の会議で本校の教育活動に役立てて行きたいと思う。現在3年生は判定会議も終わり、3月1日の卒業式を待つばかりである。1,2年生は、昨日学年末考査も終わり、この後進級判定会議をする時期になっている。この3学期は、3月の入試をはじめ、多忙な時期である。本日の新聞で志願状況調査が発表され、来年度1クラス減の総合募集6クラス、工学系1クラスの7クラス募集で、総合募集は、240に対して250、工学系は40に対して13名で大きく下回っている。これについては、多くの要因がありますが、40人を充足するために最後まで努力したい。初めての工学系の卒業生は国立大学にも合格するなど、ある程度の実績は上げられたのではないかと思う。

<座長（本津委員）挨拶>

最終の協議会ですので、我々も忌憚な意見を述べて行きたいと思う。

出席者紹介（杉山教頭）

<平成28年度学校評価について>

校 長：様々な観点から、意見をお伺いしたいので、ポイントをピックアップして説明をする。4つのカテゴリで目標を立て、取組んできた。まず確かな学力については、授業アンケートとの項目で、「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を本年度は50%を目標に取組んできたが最終46.5%であった。50%という目標を達成出来なかったが、昨年度より10%アップ出来たのは一定の実績だと考えている。また、今年度は全クラスで公開授業実施し、授業参観を2回実施したところ、学校教育自己診断の「保護者が授業参観をする機会を設けている」という設問に対する肯定回答が15%アップし、評価をいただいた。また、安全で安心な学校づくりでは、今年度、「学校教育相談」関係の肯定率が4%アップした。

本校の課題の一つ人権感覚の育成は引き続き今後の課題ととらえている。今年度2回実施した教職員人権研修も来年度以降さらに充実していこうと思う。清掃点検における「良好」の割合は昨年度に比べてアップした。

課題の一つとしては、部活動の活性化がある。加入率の目標値をほんの少し達成したものの十分な値ではなく、引き続き今後の課題である。教員のアンケートでも部活動については、肯定的な回答率が下がった。教職員の意識改革も含め、今後、どのようにして、部活動を活性化していくかは大きな課題である。

つづいて、自立・自己実現の項目であるが、インターンシップ参加の目標値が 35 名のところ 30 名であった。目標値には届いていないものの、昨年度より 75%アップできたことは一定の成果があったと考えている。

資格取得は第二種電気工事士の合格率が 92.5%で、大阪府内でトップの合格率であった。これは、生徒の頑張りのもとより、電気系の教諭が熱心に指導してくれた結果であると感謝している。また、他の機械系、環境化学系の教員も、年間を通じて様々な講習をしていただき、多くの資格所得に繋がった。

次に、進路関係だが、第 1 次就職合格率は、75.9%で目標を達成できた。面接練習を昨年度の 3 回から 5 回に増やし、放課後、全教員の協力を得ながら実施した成果であると考えている。

また、今年度、大阪府立大学工学研究科と「施設の相互使用や教員の交流など」を中心とした協定を締結し、今後に向けて一歩前進した。

地域連携については、今年度初めて実施した「中学校教員向けの施設見学」には 32 名の参加をいただいた。学校説明会、実習体験についても、去年を多く上回る参加者があった。

広報関係としては、今年度 11 月に HP をリニューアルした。結果、アクセス数が増加し、動画等も多くしたため一回の閲覧時間が増えた。今後随時更新していきたいと考えている。

諏訪委員：地域連携で中学校の先生はどのあたりから来られたのか？中学の教員向けの施設見学会で、生徒の通学区分のエリアに見合った場所からきているのか？たとえば、地元茨木よりも高槻、寝屋川、枚方、吹田からの生徒が多いと認識しているが、そのあたりの先生方がきてくれているのか？

杉山教頭：茨木、高槻に関しては、6 月に中高連絡を行い、現在 1 年生の情報を共有することをしている。この 32 名というのは吹田市の先生方にきていただいて、見学会をしてもらった。また、夏休み以降に教員で中学校訪問して、説明をしている。

本津委員：資格の方はかなり上がっている。工学系の進路についてはどう考えているか？

校長：26 名中 21 名が進路決定し、残り 5 名が受験中である。理工系大学進学 100% と思っていたが、全員が理工系に進学しないといけないのかというところについては、検討が必要。文系、専門学校を希望する生徒もいるので、「希望する進路を実現」という方向にした方が実情に合うのではないかと思う。ただ、中学校側に本校の工学系大学進学専科がどういうカリキュラムできっちりと説明しないと、入学して文系を希望した場合、カリキュラムが合わないということが

起こってくるので、しっかりとした説明が必要である。

本津委員：現役で国立にも合格したことも、評価できるが、これは評価指標にならないのか？

後藤首席：評価指標ということになると、どうしても「合格率、進学率」ということになってしまう。

本津委員：国立に入ったと言うことはこれからの、宣伝になる。これからも難関大学をクリアできるような学習指導と進学指導をよろしく。

後藤首席：工学系は今年で3年目になるが、大学のことを良く理解して、将来自分が進みたい大学、学科を見つけて行くために、大学連携という授業を開設している。1年生でいろんな大学の学部に行って、大学とはどのような所であるかを知り、2年生では、実際に自分のやりたいことを考えながら、進学フェスタ等に行き、また個人的に興味のあるオープンキャンパスに行っている。今年度は、国立宇都宮大学1名、工専1名など、各大学にも多く合格したが、大阪工業大学と連携している事もあり、工大を希望する生徒が多くなっている。

本津委員：大工大とはどのような連携をしているのか？

後藤首席：工学系のある3校で、1年生が5月頃から大工大に行って、大学の設備等を見学したり、講義を受講したり、枚方、大宮キャンパスのオープンキャンパスに行ったりする。2年生は、各研究室で研究のテーマを出していただき、生徒には希望に基づいて夏休みに、実際の体験授業をおこなっている。以前から大工大で行っている。O T I 概論という特別な講義が夏休み2日間あり、従前は都島工業高校だけがやっていたが、この取り組みに工学系も入れていただき、授業を受け、合格すれば1単位の単位を認めてもらうようなことも行っている。

本津委員：それをほかの大学にも広めてもらうことはどうか？

後藤首席：大工大とは連携協定書を結んでおり、3校の工学系の教員が集まり、大工大と打合せのうえ計画を立てている。

本津委員：大変だと思うが各大学に広めてもらいたい。

後藤首席：工学系3校で行うのは難しいが、本校は電通大で設備見学や体験授業を連携はしていないがお願いをしている。

本津：もう少し連携する大学を増やしてはどうか？

後藤首席：検討する。今でも1年生では各大学に行っている。今後、オープンキャンパスの情報を流し、生徒には多くの大学を知ってもらいたい。

<生活指導部関係>

井上首席：目標遅刻数4000以下は達成出来る。遅刻常習者指導については、第2回学校協議会において、「進路決定の3年生の遅刻増に対する対応を」という意見をもらったので、今年度説諭の指導を過去2回以上している生徒に対して呼び出した。全員が就職内定しているために、社会にでる前に自分のために、遅刻しないように説諭し、遅刻したら放課後に再指導をした結果、遅刻数は減った。

違反カード指導については、新しく改善した身だしなみ指導について、ほぼ徹底出来た。防寒着の指導は、まだ不十分のところがあるが、繰り返し注意をする事により、徹底出来てきた。結果、身だしなみ指導件数は減り。目標の10%減は、達成出来た。授業規律違反カードも、70%減で達成出来た。

今後の課題は、服装規定の見直し。校内の帽子使用である。

7月には、企業の方々が、来校するので、教員全体で厳しい指導をする。

本津委員：今年度の「生活指導」の達成率は高いと思う。

田中委員：帽子の着用を認めていたのは、何か理由があったのか？

井上首席：理由はなく、服装規定の中に項目がなかった。

本津委員：身だしなみ違反4件というのは同じ生徒なのか？

井上委員：同じ生徒も入っている。

本津委員：学期末に遅刻指導をリセットするのはなぜか？

井上首席：成績を出すときに、出欠統計を学期ごとに出しているのので、テストが終わった後にリセットすると、テスト後の授業の時に遅刻者増えるので学期ごとにした。

<3月卒業予定者の就職、進学について>

山本教諭：10期生の進路決定についてだが、就職はほぼ希望通り内定をもらっている。

進学については、一般入試はこれから受ける生徒がいる。

進学先は、ほとんどが指定校推薦で合格。学校に偏りがあり、工大、産大、電通大が多い。専門学校に切り替える生徒もいる。

学校紹介就職、一次合格率、75.9%で、残りの生徒は、進学から就職、就職から進学に変わった生徒もいるが、就職に関しては100%となった。

求人数は昨年度よりかなり増えた。また、新しい企業からも求人をいただいたが、受験する生徒は少ない。

本津委員：決まっていない5名は、まだ、どこも決まっていないのか？

山本教諭：2名が決まって、残り3名が決まっていない。今から受験する生徒もいる。

<資格取得について>

井上首席：国家資格、検定試験、技能講習等がある。第2種電気工事士は、合格率が高くなった。全体的に合格率が少しであるが増えてきている状態である。

技能大会は、缶サット甲子園で近畿大会2位、全国大会出場、ロボット相撲は、近畿大会で3位で、全国大会出場。

本津委員：缶サット甲子園近畿大会の参加校は？

後藤首席：11校である。

<課題研究発表会について>

後藤首席：課題研究発表会は、8つの発表を行った。対象は2年生でアンケートをとった。

半分ぐらいは、「内容を理解できた」という回答、半分は「難しかった」という回答であった。職員のアンケートは、概ね「良かった」という意見が多かった。

本津委員：発表者は生徒の希望で決まるのか？

後藤首席：機械3、電気2、環境科学2、工学1の比率で、各系から選出した。

本津委員：優秀発表とかの賞はあるのか？

後藤首席：審査が出来ないので、行っていない。

本津委員：賞をつくって、モチベーションを上げる方法もある。

後藤首席：検討する。

本津委員：卒業研究発表会もあるのか？

後藤首席：各系で、この発表会前に、行っている。

本津委員：今回の課題研究発表会を、3年生全員で行えると良いのでは？準備とかが大変だろうが。予算をつけて、もっとモチベーションを上げれば良い。

<初任者の研究授業について>

井上首席：第2回学校協議会でポイントを決めて授業公開したらと言う意見があった。今年度は、公開授業も2回、ベテラン教員の授業見学も実施し、授業に対する意識が教員のなかで高まってきた。活発な研究授業が出来たと思う。

本津委員：かなり良くなっている。これからも続けて行くのか？

井上首席：続けて行く。

<学校教育自己診断について>

井上首席：まず、生徒の分析についてであるが、「工科の特徴である実習がある」はいつも肯定率が高い。進路指導についても例年、生徒たちの肯定度が高いが、今年度はさらに肯定度がアップした。以前に比べて今年度上がったのは、「教え方が良い」、「授業を工夫している先生が多い」という項目であった。「授業がわかりやすく楽しい」という項目も肯定率が上がっている。これは、初任者の研究授業を学校全体で取り組んだ結果ではないか。

つづいて保護者の分析だが、「入学させて良かった」という肯定率が高かった。このことは学校の教育活動について信頼をさせていただいている結果ではないか。進路面等の項目もかなり肯定的意見がアップした。緊急時の対応についても、肯定的意見が多かった。情報発信が活発になってきたのではないか。

最後に、教員の分析だが、「授業は生徒のレベルにあわせている」という項目が100%になった。他の項目も軒並みアップした。

諏訪委員：1年生の入学時にクラブに加入するようなことをしているのか？

山家教諭：例年最初にクラブ紹介をしている。生徒の中には、高校に入ったらクラブを積極的にする子もいるが、高校に入ったらアルバイトをする生徒もおり、全員が入部するのは、難しい。

本津委員：どの学校も加入率は低いのか？この解決策は、あるのか？目玉となるクラブがあれば入部するのでは？解決策を今後考えていただきたい。

田中委員：定員割れ等で、入学してきた生徒のしんどさと言うものはあるか？

校長：今の1年生については入試が定員割れであったということで、危惧していたが、年間を通じかなり落ち着いた感じであった。目的意識を持って入学してきたかどうかで、生徒や学校の雰囲気が変わるのではないかと。

つまり、工業の勉強をしたくない生徒が入学し、学校生活に意欲が無く、クラスの雰囲気を乱すこともあるのではないかと。このことを考えると、工業に興味がある生徒がたくさん入学してくれればありがたい。今の1年生は、目的意識を持って入学した生徒の割合が高く、落ち着いているのではないかと思う。

ただ、様々な面で支援を要する生徒も増えている感じはある。

本津委員：進学専科の大学入学後の、フィードバックもこれからしていただきたい。

田中委員：中学校でも工学系の話はするが、地元なので茨木工科に行ったら就職を希望する生徒が多い。工学系の今後の見通しはどうか？

校長：グローバル化が進み、海外進出する企業も多く、今後ますますこの傾向は大きくなる。したがって工業高校のありかたも変化していかなくてはならない。求人についてもいつまでこのような状況が続くかわからない。工科高校から就職という進路だけではなく、理工学系の大学に行き企業家になれる人材を育成することも必要であると考えている。このようなニーズに応えることが工学系のありかたであろう。